

古平の魚霊碑

長谷川 英一

札幌中心部からおおよそ70数kmのところ、積丹半島の北東側に古平（ふるびら）町があります。ここは江戸時代からニシン漁が栄えた土地で、古平漁港にある東しゃこたん漁業協同組合の直売所の脇に魚霊碑（写真1）が建立されています。建立された昭和43年当初は漁港外れの場所にあったそうですが、人目に付きにくいということで4～5年ほど前に現在の場所に移設されました。碑石は自然石の硬石、土台のはめ込みは黒みかげ石です。「魚霊碑」の題字は当時の北海道知事である町村金吾の書、はめ込み部分の文案と書は当時の古平漁業協同組合理事であった佐々木孝泰によります。



写真1 魚霊碑



写真2 セタカムイ岩

はめ込み部分の文には、『千古を誇る蝦夷地の開拓は海道に始まり魚族に生きる人々に因って其の一步を踏み出した 古平もその如く遙かな波路を越え此の地に生活を遂げた先人に因って海田の扉は拓かれた 以来風雪を重ねる事百年 今や日本海は言うに及ばず遠くオホーツク海アラスカ周辺の海域に船出して今日を築くに至る 我等が子孫又万里の彼方に飛躍する 憶ひ今日あらしめた先人を偲び 豊漁の欣びを齎すした魚霊を祀り 魚族の尽きる事なきを祈願す 茲に古平町開基百年を記念し之を後世に捧ぐ 昭和四十三年九月七日 古平漁業協同組合建之』と建立の由来が記されています。

この文章にもあるように、和人が蝦夷地にやってくる以前からアイヌ民族が海漁の礎を築いてきたことを称えています。

その海漁の歴史は1996年2月10日に起きた古平と余市の間地点の豊浜トンネル崩落事故現場近くにあるセタカムイ岩（写真2）に纏わる伝説によっても窺い知ることができます。豊浜トンネルの古平側のパーキングエリアにその由来が記されています。『昔、ラルマキという村の若い漁師が、一匹の犬を飼っていた。漁師は、犬を可愛がり犬も主人によくついていた。ある時、海が久しぶりになぎになり、漁師は仲間と共に沖へ漁に出た。犬は、いつものように海辺で主人の帰りを待っていた。ところが、朝は穏やかであった海が、何時のまにか波が高くなり、日暮れとともに暴風雨となってしまった。村人はかがり火を焚いて無事を祈った。やがて、難を逃れた漁師が浜に帰ってきたが、犬の主人は、ついに帰ってこなかった。暴風雨は何日もつづいたが、犬は海辺で待っていた。そして、ある夜、悲しげな犬の遠吠えが、何時までも聞こえていたと言う。翌朝、暴風雨は止んだが、海辺に犬の姿は無く、岬に、犬の遠吠えをした形の岩が、こつ然とそそり立っていた。人々は、その岩を「セタカムイ」（犬の神様）と呼ぶようになった。』（原文のまま）

なお、魚霊碑については古平町文化会館の町史資料室の村井芳男氏から情報をいただきました。記して謝意を表します。

はめ込み部分の文には、『千古を誇る蝦夷地の開拓は海道に始まり魚族に生きる人々に因って其の一步を踏み出した 古平もその如く遙かな波路を越え此の地に生活を遂げた先人に因って海田の扉は拓かれた 以来風雪を重ねる事百年 今や日本海は言うに及ばず遠くオホーツク海アラスカ周辺の海域に船出して今日を築くに至る 我等が子孫又万里の彼方に飛躍する 憶ひ今日あらしめた先人を偲び 豊漁の欣びを齎すした魚霊を祀り 魚族の尽きる事なきを祈願す 茲に古平町開基百年を記念し之を後世に捧ぐ 昭和四十三年九月七日 古平漁業協同組合建之』と建立の由来が記されています。

この文章にもあるように、和人が蝦夷地にやってくる以前からアイヌ民族が海漁の礎を築いてきたことを称えています。

その海漁の歴史は1996年2月10日に起きた古平と余市の間地点の豊浜トンネル崩落事故現場近くにあるセタカムイ岩(写真2)に纏わる伝説によっても窺い知ることができます。豊浜トンネルの古平側のパーキングエリアにその由来が記されています。『昔、ラルマキという村の若い漁師が、一匹の犬を飼っていた。漁師は、犬を可愛がり犬も主人によくなついていた。ある時、海が久しぶりになぎになり、漁師は仲間と共に沖へ漁に出た。犬は、いつものように海辺で主人の帰りを待っていた。ところが、朝は穏やかであった海が、何時のまにか波が高くなり、日暮れとともに暴風雨となってしまった。村人はかがり火を焚いて無事を祈った。やがて、難を逃れた漁師が浜に帰ってきたが、犬の主人は、ついに帰ってこなかった。暴風雨は何日もつづいたが、犬は海辺で待っていた。そして、ある夜、悲しげな犬の遠吠えが、何時までも聞こえていたと言う。翌朝、暴風雨は止んだが、海辺に犬の姿は無く、岬に、犬の遠吠えをした形の岩が、こつ然とそそり立っていた。人々は、その岩を「セタカムイ」(犬の神様)と呼ぶようになった。』(原文のまま)

なお、魚霊碑については古平町文化会館の町

史資料室の村井芳男氏から情報をいただきました。記して謝意を表します。

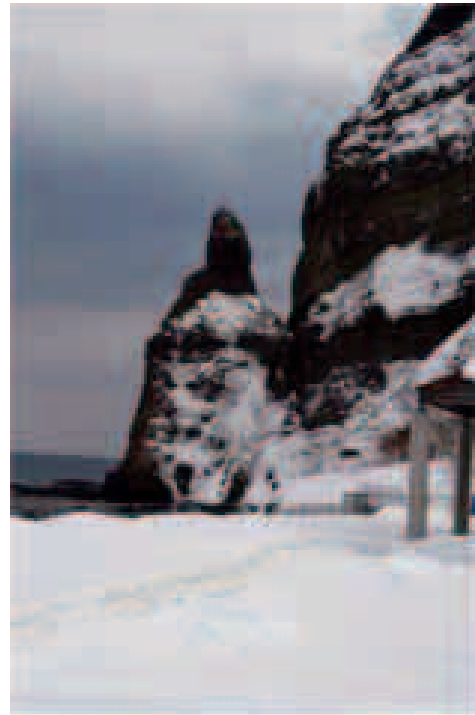


写真2 セタカムイ岩